

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はいつも貼り出しヘルパー会議の折、それに基づいた介護の話し合いをしている	「いつまでも生き生きと、ひとりひとりを大切に」が事業所理念である。新人職員のオリエンテーションや毎月のヘルパー会議で理念への理解を深めている。理念を意識しやすいように玄関口や各ユニットの事務所に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人と話し合いを持ち、施設の状況等話し、また、地域で必要な物の貸し出しを約束。児童援助等	地域の子供会に事業所の敷地や必要物品を貸し出し、バーベキューや流しそうめんなどを主催してもらい、地域との交流を図っている。また、地域住民から古紙やタオル、季節の野菜などの提供があり、利用者に関わる機会を持っている。事業所は自主的に近隣の清掃活動を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	機会有るごとに認知症の理解を深めていただくよう、相談支援の受付を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回行っている。又、近隣の方の参加していただき各方面の意見を頂戴している。	2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、利用者家族や地域住民の参加があり、意見交換を行っている。町職員への呼びかけは行っているもの会議への参加は少ない。事業所の行事や近況報告したり、サービスの質について話し合っている。利用者の生活の質が向上できるように協議を重ねている。協議内容等はヘルパー会議で話し合い日々の支援に反映できるように努めている。	

5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>常に連携を持っている(インフルエンザ)</p>	<p>空き室や平均介護度などの状況確認や運営に関する質疑など、定期的に町の担当職員と連絡を取り合っている。利用者の受け入れに関して町の担当者から相談があり、入居対応するなど協力関係を築く努力を行っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束の研修に参加し、ヘルパーにも研修を行い、取組みを常にしている</p>	<p>毎年1回は研修を実施しているほかに、ヘルパー会議で話し合う機会を設けている。また、外部研修を年1～2回程度参加し、伝達研修することで理解を深めている。各ユニットの出入口は解錠しており自由に行き来が行える。近隣が山林で、遭難のおそれやイノシシの出没もあり、危険なため、玄関口は施錠している。外に出るときは職員が同行している。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修を行い常に全体で防止している特に言葉の虐待に気を付けている</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在も継続して研修会等に積極的に参加し、勉強会を実施している。すでに現在2名おられます。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>理事長・管理者が契約書に基づき説明をして理解納得していただいている</p>		

10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	モニタリングの折、意見を聞き全員で心がけている	家族の訪問時に意見を聴き取ることや、普段のケアを行う中で利用者から思い等を聴き取っている。利用者やその家族から聴き取った情報は、職員同士、口頭で伝えるだけでなく、業務日報を活用し職員間で情報を共有している。利用者の支援に関わる意見が多く、ヘルパー会議で検討を行いサービスの質の向上に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	ヘルパー会議、責任者会議で話し合いをする機会を設けるように心掛けている	管理者は、現場で職員とかかわりが持てる機会を作り、毎日声をかけ相談を受けるなど職員への気遣いを持って接している。車いすや介護ロボットの購入など職員の意見をできる限り反映することに努めて、働きやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の生活環境にも気を配り、毎日の健康を考えた勤務体制をしている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業者間の連絡を積極的に取り組み、その時に必要な研修に力を入れている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他のグループホームとの情報交換や、勉強会を、施設見学等交流を図り、ネットワークづくりの話し合いはしている		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所時不安の中で自分の思いを伝えることは難しいので不安を取り除きながらゆっくり話を聞きながら想いに沿うように努めている</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前後時間をかけてご家族から話を伺い、利用者様を安心して入所して戴けるよう、管理者、ケアマネージャー、しよくいんが心がける</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>事前情報、利用者様の面談に足を運び、より多くの情報をもって支援するように努めている</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員は、介護させてもらう中で、人生の先輩としての生き方や知恵を学び介護のスキルアップに努めている</p>		
19		<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>毎日の生活の中での着付きや変化は、家族との連絡をとり、できるだけ月に1度は見舞っていただくようにしている</p>		

20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達からの電話等にはお話をしていた だき、また、ご家族様とのお墓参りや外 食等に努めている	知人の訪問や電話や郵便物での便 りがあった時は、昔の思い出話を傾 聴し、利用者が思い出を懐かしむこ とができるように積極的に声掛けを 行っている。利用者がふるさとや家 族と過ごす時間が持てるように家族 と話し合っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひ とりが孤立せずに利用者同士が関わり 合い、支え合えるような支援に努めて いる	話し合える者同士と一緒にテレビを観 たり、部屋の往来をしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、こ れまでの関係性を大切にしながら、必要に 応じて本人・家族の経過をフォローし、相 談や支援に努めている	電話がかかってきた時、会ったときに 話をする		

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向 の把握に努めている。困難な場合は、本人 本位に検討している	ヘルパー会議等で全員が共有する	職員は、日頃のかかわりの中で、利 用者から意見や思いを聴き取ってい る。利用者の表情や仕草、目線など 観察し利用者の立場になって、意向 を汲み取るように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、 生活環境、これまでのサービス利用の経過 等の把握に努める	介護サマリーや看護サマリー等の情報 提供を受けたり、アセスメントを行う際、 できるだけ本人から話を聞くように努め る		

25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズム表、介護日誌、排泄表等細かくチェックしその内容をヘルパーが把握し、状況に応じて対応している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は、一人一人の情報を把握し、毎月のモニタリングで評価し見直している。急速な状態変化がある場合は、その時々での気づきや意見を尊重し、臨機応変に計画を変更している	毎月ヘルパー会議で話し合いを行い、状況の変化に応じて介護計画を作成している。介護計画を見直す場合は、サービス担当者会議を開き、家族や介護職員など関係者が参加し、意見や意向を取り入れ作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の一人一人の日々の様子は介護日誌に記録されており、情報は共有されている。特に周知徹底すべき事項は、連絡ノートに記入して常置している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医師とのコミュニケーションに特に力を入れている。介護者全員が会議で共有している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自然の移り変わり等をいつも話しかけて季節感を楽しんでいる		

30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>開設以来のかかりつけ医の往診は月1 回であるが、利用者の変化により家族 やかかりつけ医と相談し、提携の病院を 受診できる様支援している</p>	<p>利用者は事業所を利用前のかかり つけ医がそのまま施設でのかかりつ け医という利用者が多い。精神科、 眼科、歯科等の専門医も内科のかか りつけ医同様に月に一度往診があ る。診療科ごとに作成しているノート は、往診に来る医師が担当科に関係 なく自由に閲覧できるため、介護職 員が書き込んだ利用者の変化など、 利用者の状況を共有できるようにし ている。</p>	
31		<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるよう支援し ている</p>	<p>一日のリズムの管理等を細かく記録す ることによって報告、検討の材料にして いる</p>		

32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>利用者の入退院時には介護サマリーを退院時には看護サマリーを互いに情報を提供することで、早期退院に向け努力している</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族に前もってターミナルケアに対する考えを伺ったうえ、医師と家族関係者と一緒に取り組む</p>	<p>看取りの支援については、入居の際に利用者、家族に説明し署名、捺印を利用者もしくは家族よりもらっている。実際に看取りが近づくと医師を交え今後の支援等について話し合いを行っている。開設以来毎年1～2名の看取りを職員が経験しているため、看取りについての戸惑いはない。また、重篤化したためにグループホームを利用したいという家族の依頼に応じて、利用者を受け入れている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルを利用して対応している。119番直通の体制を整えている</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>町・消防署と関係者に検査をしていただくとともに、職員一同で年2回訓練を行っている</p>	<p>防災訓練を年に2回実施している。そのうち1回は夜間を想定した訓練も実施している。また島本町主催の年に1度の防災訓練にも職員は参加している。災害時の備蓄についても利用者が3日間凌げる食料の用意をしている。備蓄は別棟の倉庫で保管し、年に1度賞味期限の点検も行っている。</p>	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>職員は利用者の人格を尊重し、プライドを損なわない</p>	<p>利用者の尊厳、プライバシーには万全の体制での支援を心掛けている。特に日頃から何気ない声掛けにも注意を払い職員間でお互いに意識を高めている。排泄、入浴については、基本は同性としているが、その利用者が日々の生活の中で気が合っているよう感じとれる職員が支援するなどの工夫をしている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>			
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日々のおおよその日課は作られてはいないが、利用者の体調を見ながら利用者の気持ちに沿えるように支援している</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>日々の服装は職員がアドバイスしながら選んでいただいている。2ヶ月に1度程度ボランティアの美容師様が見えて髪をカットしていただく</p>		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>お誕生会の赤飯や行事の時のお寿司等を選任の調理員が工夫をしている。食後の片付けはできる利用者と一緒に手伝ってもらっている</p>	<p>食事の支援においては、特に力を入れている。完全手作りにこだわっており、専任の調理師が四季折々の料理を作り、季節感を少しでも感じてもらえるように努力している。正月にはおせち料理、誕生日にはケーキをそれぞれ手づくりで提供し、利用者に喜んでもらえるように支援をしている。また事業所の裏庭で収穫した季節の野菜も時々ではあるが食材に用いるケースもある。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎日記録をとり、その利用者にあった摂取の方法を把握し対応している</p>	/	/
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>朝、夕各個人にあった口腔ケアを介助にて、清潔を保つようにしている</p>	/	/
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>毎日の排泄表により、一人ひとりのリズムをもって声掛け、誘導を支援している</p>	<p>寝たきりの利用者以外は全てトイレでの排泄ができるように努めている。夜間帯は自分で排泄に行く利用者もいるが、おむつをしている利用者には睡眠の妨げに十分に配慮をして原則2時間おきに巡回し排泄の確認を行っている。病院から退院し入居した利用者の中にはオムツからトイレでの排泄に変わった利用者もいる。</p>	

44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>かかりつけ医と相談しながら、水分補給、食事、服装等で対応している、また、毎日午前10時にはフルーツ入りのヨーグルトを支給している</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>現在週2回の入浴が決められているが、利用者の体調や気持ちに沿えるよう対応している。また、入浴不可能の時や拒否等の時は、シャワー浴や足浴で対応している</p>	<p>入浴については原則、利用者毎に曜日を決めて毎日3,4名の少人数の支援をしている。できるだけ時間に余裕を持たせ、ゆったりと入浴できるようにしている。入浴を拒む利用者に関しては、声かけする職員や入浴の曜日を変えるなどの柔軟な対応をしている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>介護日誌を基に、その都度先生の指示を仰ぐようにしている</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>毎月1回の定期往診時に先生からの指示や意見等は、ノートに記載し、処方箋と共に周知徹底している。症状の変化には連絡ノートで対応している</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>食後の食器洗いや、テーブルの清掃又洗濯物の整理や、各自の部屋のモップかけ等また、行事の折は部屋の飾りつけ等をできる人で手伝っている</p>		

49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>日々の生活の中で敷地内にある、野菜畑近くの池等に散歩に出かけたりまた、ご家族の協力を得て、町のふれあいセンター内の喫茶店等に出かける</p>	<p>外出の支援については、近隣の町のふれあいセンターもしくは、事業所の前にある池に鯉を見に行く事で気分転換を図っている。立地的に事業所の近辺には楽しむことのできる公共施設も少なく、利用者の身体機能の低下もあり、家族の協力無しでは、充分な外出ができていないのが現状である。</p>	<p>家族や地域住民、認知症サポーターの協力を得ながら、利用者が生き生きと過ごせるような工夫や取組に期待する。</p>
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金は所持していない。必要な時は施設で立替をして毎月の請求書で清算をしている</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>時には電話をかけている利用者もいるが、ほとんど掛けてきた電話を受ける場合が多い</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>1階2階ともフローアの大きな窓、居室の窓からは桜や、青竹、山の紅葉等四季の移ろいを感じられるようふうしている。また、部屋の温度調節は、年間通して快適な温度を保つように心掛けている</p>	<p>共用のスペースで日中利用者が過ごすことが多く、テレビを観たり職員との団らんを楽しむ利用者が多い。壁には利用者、職員と一緒に作った季節に応じた作品を飾っている。また2階の階段横には、巨木をくり貫いた大きなテーブルと椅子を設置しており利用者がゆったりと腰をかけることができる。事業所が山手に位置する場所にあるため、窓からの景色は竹やぶが見え、春には桜の花を楽しむことができる。</p>	

53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>各フロア毎に大きなテーブルがあり、食事やレクリエーション等を行っているまた、ソファが置いてありテレビも置いてあるコーナーがある</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室の入口には、利用者の表札が張っている。居室には使い慣れた者や家族の写真等が持ち込まれている</p>	<p>各居室には、トイレ、洗面台、エアコンを備え付けており、利用者が持ち込む物は基本的に自由に仏壇を置いている利用者もいる。トイレにはドアが無いのでカーテン等の目隠しをして、プライバシーの確保に努めている。またベッドではなく畳で布団を敷いて暮らすことも可能である。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>清潔、安全、温度、湿度の管理等を常に心がける様にしている</p>		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい る	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない